

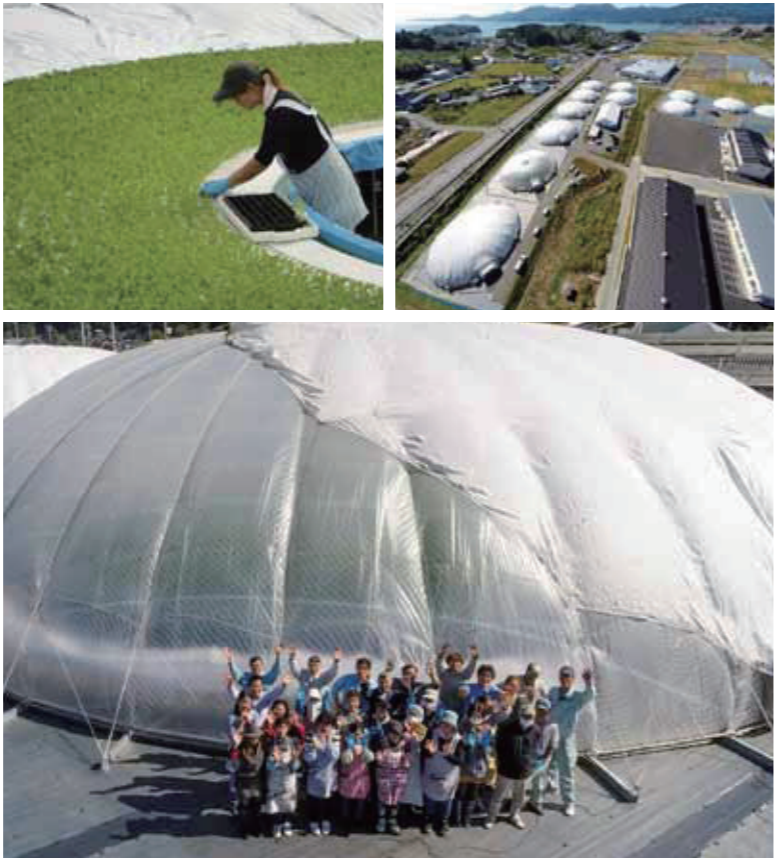


## 若者が夢を 描ける農業を

株式会社グランパ代表取締役社長

阿部隆昭さん

【神奈川県】



### 阿部隆昭さん

阿部さんは日本の農業の未来を見据え、長年勤めた銀行を退職、エアドーム式植物工場を開発。グランパファーム陸前高田を立ち上げ、被災地支援として産業の振興、雇用の創出に取り組んでいる。今は軌道に乗っているグランパファームだが、立ち上げにはどのような苦労があったのか、未来を見据えた新しい農業とは、語っていただく。

### 中高生へのメッセージ

自分をしっかりと持って、何と言われても頑固に本当に自分の好きな事ややりたい事、欲しいものを追求めてください。他の人にとって地味でも、自分にとって大切な事を大事にしてください。

### 震災以前のこと

東京の大学を卒業後、故郷の青森に戻り、青森銀行に入行しました。支店長や東京国際部参与を経て、金融派生商品を学ぶために欧米に2年間滞在する機会を得たのですが、そこで「稼げる農業」に出会いました。50歳で退行し、民間企業を経て61歳の時に農業で起業することを決意。若者が夢を描ける農業を目指し、生産から販売までをトータルに行う株式会社グランパを立ち上げ、植物工場「グランパドーム」を開発しました。

### 震災から現在

震災当日は神奈川県秦野市の農場にいたのですが、停電などで交通が大混乱をし、普通なら1時間で帰れる本社に、8時間ぐらい掛かって帰り着きました。車内のラジオから流れるニュースの内容は、現実のこととは思えませんでした。

被災地は津波による塩害などの被害が大きく、農業生産できないし、雇用もない。そこで、太陽光を利用し、高効率で高い収穫量を誇る水耕栽培専用のエアドーム、グランパドームの技術を被災地を持って行って、現地の人を雇用し、そこで生産した野菜を販売しようと考えました。これには、陸前高田市の市長が非常に積極的に受け入れをして下さって、震災翌年の8月に津波で壊滅的な被害を受けた陸前高田に「グランパファーム陸前高田」を立ち上げました。

従業員は地元で雇用した18名。被災するまでは水産加工場で働いていた人や主婦の人たちです。それまで農業とは縁のない人たちですから、すべてがゼロからのスタートでしたが、皆が一生懸命仕事を覚えてくれました。グランパドームもはじめは8基でスタートしましたが、今では12基に増えました。

ドーム内では、データ管理された毎日の履歴によって、最適な栽培環境を導いています。生産した野菜は地元のスーパーや生協に出荷していますが、どの野菜も栽培履歴の管理をしていますから、お客様が口にした野菜が、いつどこで、誰が作業をしたか、が分かるよう記録されており、安心して食べていただけます。

今、グランパドームは陸前高田を含め、国内10農場に施設があります。近く、アブダビにも農場が完成する予定です。実は、私たちの取り組みは教科書でも取り上げていただいています。少しずつではありますが、子どもたちの農業に対する考え方が変わる、周りの環境が整ってきていると感じています。

### 将来のビジョン

近年、私たちの暮らしは温暖化、集中豪雨、猛暑、火山の噴火など、異常気象に悩まされています。特に従来の農業は自然に大きく左右され、自然の脅威と常に背中合わせ。旧態依然とした農業では安定生産はできません。その上、日本の農業就業人口の60%以上は65歳以上で、高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などという大きな課題に直面しています。

このような閉塞した日本の農業を変えるためにも、グランパドームを核とした地域展開を推進し、これまでの農業のイメージを変え、若者が将来の夢を描けるものになりたいと考えています。植物工場の技術や野菜を国内だけでなく、世界各地に積極的に輸出し、農業技術を学びたい外国人留学生の受け皿としての役目も果たしたいと考えています。